「洛西ニュータウン緑のまちづくりに向けた提言書」

―樹木管理の基本指針―

平成２５年３月

洛西ニュータウン創生推進委員会

はじめに

洛西ニュータウンは、京都市の事業として 1969 年に都市計画決定、事業決定され、その後、京都大学上田研究室によるマスタープランをもとに、設計・工事が行われ、1976 年より入居が開始された。総面積 261ha、南北約２km で、中央に小畑川が流れ、三方を山や小高い丘に囲まれた、小さな京都盆地のような山紫水明の地勢である。

まち開きから 35 年がたち、樹木が大きく育った一方、強剪定による立ち枯れや混植による街路景観の不統一などが見られ始めている。

「洛西ニュータウンまちづくりに向けた提言書」（以下「提言書」とする）は、計画当初の優れた「デザインポリシー」※) をもとに、洛西ニュータウンの特徴ある植栽を生かし、さらに豊かで美しい緑環境を形成・管理していくための基本指針とするものである。

※）本「提言書」において、洛西ニュータウンの「デザインポリシー」とは、都市計画学会による「京都市洛西新市街地開発事業地における景観構成に関する調査報告書」（1973,3）における計画当初のデザインの基本指針、洛西ニュータウン創生推進委員会主催のまちづくり勉強会（2009,10）における、上田篤京都精華大学名誉教授(洛西ニュータウン計画者）による講演「洛西ニュータウン誕生から未来へ」、および建設当時植栽計画の担当技師であった平井義昌氏による講演「洛西ニュータウンの植栽計画」において公表された計画にあたっての基本方針を示すものとする。

洛西ニュータウン緑のまちづくりに向けた提言書

―樹木管理の基本指針―

はじめに

１．目的と対象

　１）目的

　２）対象

２．洛西ニュータウンの「デザインポリシー」と植栽計画

　１）森の中のニュータウン

　２）街路樹を緑のトンネルに

　３）小学校をむすぶ回遊緑道

　４）公園は緑道のヘビタマだ

３．現状と課題点

　１）街路樹

　２）緑道

　３）公園緑地

４．植栽管理の基本指針

　１）街路樹

　２）緑道

　３）公園緑地

５．住民とともに成熟する洛西ニュータウンの緑

１．目的と対象

１）目的

本「提言書」は、以下の事柄を目的とする。

① 計画当初のすぐれた「デザインポリシー」と、現在の個性的で魅力ある洛西ニュータウンの緑の特徴を、行政と住民が理解・共有し、将来に受け継ぐ。

② まち開きから 35 年を経た現在の樹木管理の課題点を把握し、今後の樹木管理の基本的な方向性を住民と行政が共有することにより、「森の中のニュータウン」洛西の、豊かで潤いのある緑環境と、美しい緑景観の形成に寄与する。

③ 洛西ニュータウンにおける行政による樹木管理の基本指針の恒常性・継続性をサポートする。

２）対象

本「提言書」は、洛西ニュータウンの公共的空間（街路、自転車・歩行者専用道（以下緑道とする）、公園緑地）の樹木や植栽の、剪定や植え替えなどの管理にかかわる事柄を対象とする。

２．洛西ニュータウンの「デザインポリシー」と植栽計画

洛西ニュータウンは、約４０年前に計画された魅力ある計画都市である。洛西ニュータウンの建設当時のデザインの基本指針である「デザインポリシー」をまとめると、以下のようになる。

１）森の中のニュータウン

「森の中のニュータウン」にふさわしい植栽計画とし、既存の樹木・竹藪等はできるだけ保存し、新たに植栽される公園樹や街路樹は、年間を通じて花や紅葉が楽しめる樹種とする。

２）街路樹を緑のトンネルに

・幹線道路には歩道のほかに街路樹の敷地をもうけ、積極的に街路樹をうえる。その街路樹は、よく日本の都市の街路樹にみかけるように、やたら木の葉を剪定したり丸坊主にしたりするものではなく、木々をすくすくのばしてヨーロッパの街路樹のように緑のトンネルをつくる。

・街路樹は、サクラやケヤキやイチョウなど風土に合った樹種とする。仙台ではケヤキがうえられた。電柱がないからケヤキはすくすくそだってうつくしい樹形をつくり、たいそう評判になった。春はサクラ、夏はケヤキ、秋はイチョウといったように三つのシーズンにそれぞれ盛りをむかえ、冬はケヤキの枯れ枝がとてもロマンチックだ。洛西には春夏秋冬の楽しい並木道をつくる。

・洛西ニュータウンの道路は、ほとんどが地形に沿って曲がった個性的な街路であり、街路樹は、9路線約 14km の道路ごとに樹種を選び、同一路線内で樹種は変えないものとする。主要道路は、ケヤキ、ナンキンハゼ、トウカエデ、クスノキ、ユリノキ、イチョウ、エンジュ、モミジバフウ、アオギリ、トチノキ、シナサワグルミの並木道とする。

３）小学校をむすぶ回遊緑道

公園、学校、タウンセンターなどをつなぐ緑道のネットワークは、安全、快適な歩行者専用路および自転車道となる。人々の憩いと散策の場とするよう計画され、アキニレ、サクラ等を植栽し、緑道ごとの変化を持たせている。

４）公園は緑道のヘビタマだ

公園はみな回遊緑道でつながっており、ヘビが卵をのんだように、公園のところだけはいわば回遊緑道がふくらんだような形にしている。

公園は、既存の樹木・竹藪等はできるだけ保存し、特に優良なものについては、これらの保存を前提とし、新林池公園、大蛇が池公園では、既存の植生である、孟宗竹、コナラを生かす。園路通行者の進行方向には、常にアイストップを用意し、園路歩行者からみて好ましいものとなるようにする。

３．現状と課題点

建設から３５年を経て、洛西ニュータウンは、緑豊かな魅力あるまちに育ってきた。

四季の移り変わりや街路樹の緑のトンネルなど、緑の豊かさが住民アンケートでも洛西ニュータウンの魅力の一位に挙げられている一方で、大きく育った木々の剪定の方法や、街路樹の樹種の不統一など、当初の緑を生かしたまちづくりの「デザインポリシー」が乱れてきている。

１）基礎データ

洛西ニュータウン内の樹木数は、次のとおりである。

・街路樹

高木：約 3,500 本（西京区全体では、約 7,000 本）

低木：約 70,000 本（西京区全体では、約 130,000 本）

・公園

高木：約 8,800 本

中木：約 2,500 本

低木：約 54,000 本

２）街路樹

洛西ニュータウンではとりわけケヤキがりっぱに生育している。このような街路樹は仙台をのぞけば日本にあまりない。

まちびらき当初、主要道路にはそれぞれ統一した街路樹が植えられ、特徴ある並木道を形成していたが、近年枯れるなどの事情により、当初の樹種と異なる樹木が植えられる場合が見られるほか、植えられた土地の性質に合わないためか、成長が芳しくない街路樹も見えはじめてきている。また、大きく育った根が歩道を持ち上げ歩行者の通行に支障が生じたり、成長した幹がガードレールに食い込むなどの問題も発生してきている。そのほか、サクラ等で害虫を初期段階で退治することができず、大きな被害へとつながっているケースも見られる。

２）緑道

全長約７km の緑道は、緑道ごとの特徴がみられる一方、成長した樹木の根上がりにより、車いすでの通行や歩行に支障をきたす例も見られる。

３）公園

公園ごとに原植生や水面を生かした特徴ある景観を持ち、美しいランドマークツリーのある公園などがある。

その一方で、美しい樹形をしたメタセコイヤが電柱のように剪定された問題や、住宅が隣接する所では、細かい落ち葉が雨樋に詰まるなどの問題も発生してきており、伐採をする場合の住民との合意形成の方法などの課題も指摘されている。

４．植栽管理の基本指針

植栽管理にあたっては、計画当初の「デザインポリシー」を基本とし、豊かで特徴ある緑環境の形成を行うものとする。

１）街路樹

街路樹の持つ機能や効能は多く、歩行者への日陰の提供、並木による潤いのある沿道景観の形成のほか、ケヤキ１本で年間約 350kg（人の呼吸の年間二酸化炭素排出量は約 320kg）もの二酸化炭素を吸収するなど、地球温暖化防止にも貢献している。

街路樹管理の基本指針は、以下のとおりとする。

①街路樹の樹種は、通りごとに統一した樹種とする。

②道路改修や、立ち枯れなどによる植え替えに伴う街路樹の樹種の選定に際しては、土地の性質に対して生育に適したものとするほか、沿道住民の意向を尊重したものとする。

③樹種や周辺環境を考慮した剪定方針とする。

・特に全国街路樹百選に選ばれ、緑のトンネルを形成している新林本通りについては、樹形を維持し、枯れ枝の切除を基本とする。ただし、街路樹が道路法上の道路付属物であることから、交通標識、信号、街路照明、電線等に支障のある枝や、民地越境枝、建築限界（車道 4.5m、歩道 2.5m）の枝については、適宜剪定を行うものとする。
・その他の街路樹は、樹種に応じた適正な剪定や姿かたちを整える剪定（整姿剪定）及び「枝抜き剪定」を基本とし、原則として２段階剪定は行わない。ただし、成長により倒伏の恐れがあるものについては、適宜剪定を行うものとする。
・隣接した住宅地との十分な距離がある場合には、極力剪定を避けるものとする。

２）緑道

緑道は、低木や高木を生かした美しい景観づくりを行うとともに、周辺住民や小中学生に親しんでもらえるような管理方法を考慮する。

３）公園緑地

それぞれの公園ごとに、公園の特性や環境に応じた管理を行うものとするが、以下のことがらを共通の指針とする。
①樹木本来の樹形を考慮した形態に剪定するものとする。
②防犯に考慮し、場所の特性に応じて死角が生じにくい剪定とする。
③住宅に近く雨樋に詰まりやすい葉の小さな樹種については、今後間伐なども考慮するものとする。

４）落ち葉

落ち葉は，シャンソンに歌われるなど都市生活の秋の風情でもある。公園樹や街路樹の落ち葉は、単にゴミとして処分するのではなく、堆肥作り等により周辺農家や園芸愛好家に使ってもらうなど、行政と連携して有効活用をすすめるものとする。

５．　住民とともに成熟する洛西ニュータウンの緑

１）本「提言書」は、樹木管理の基本的指針を示すものであるが、今後様々なケースが考えられるため、個々の樹木管理については、「提言書」の趣旨に沿った管理をすすめていくものとする。

２）緊急時等を除き原則として、樹木の伐採にあたっては、事前に周辺住民と協議を行うものとする。

３）害虫対策として、住民と連携して被害発生の初期段階で被害把握を行い、速やかな害

虫駆除により被害拡大を防ぐ。

4）街路の改造など樹木に関する大幅な改修がある場合には，住民と行政が協力して植栽計画づくりを行うものとする。

5）本「提言書」は、洛西ニュータウンの豊かで美しい緑環境づくりをめざすものである。洛西ニュータウンで大きな面積を占める、UR、市営、府営集合住宅などに対しても、本「提言書」の趣旨の浸透につとめ、力をあわせて洛西ニュータウンの豊かで美しい緑環境づくりを行う。

6）街路樹足元、緑道、公園緑地の植栽は、原則市が行うものであるが、住民によって植栽が行われる場合には、市および周辺住民の合意を得た、統一感のあるものとする。